

ヤンネ 館野 (ヴァイオリン Janne TATENO)

フィンランド生まれ。ヘルシンキ音楽院にてシルッカ・クーラ、オルガ・バルホメンコ、ルーズベルト大学シカゴ芸術大学音楽院にて森悠子の各氏に師事。11年東京文化会館にてリサイタルを行う。12年、20年ソリストとして山形交響楽団と共演。15年ヘルシンキにてW.ケンプコンチェルト演奏。現在ラ・テンペスタ室内管弦楽団(ヘルシンキ)のコンサートマスター兼音楽監督、山形交響楽団第2ヴァイオリン首席奏者、森悠子氏主宰長岡京室内アンサンブルやアルゼンチンタンゴグループでの演奏など、ソロ、室内楽、オーケストラ奏者としてフィンランドと日本、二つの祖国において幅広い活動を展開。

松川 暉 (ヴァイオリン Hikaru MATSUKAWA)

東京藝術大学在学中、文化庁新進海外研修員として、英国ギルドホール音楽院へ留学。ローム音楽財団奨学金を受け、同音楽院学部課程を卒業、同音楽院大学院修士課程を修了。ミラノスカラ座アカデミーオーケストラコンサートマスターとして研鑽を積み帰国。

第57回全日本学生コンクール全国大会1位、第3回京次エンジェルVnコンクール第2位、第10回レイジツァヌッコリ国際コンクール第1位(イタリア)。室内楽ではトリオアミコラムとしてロンドン音楽協会より「Ivan Sutton賞」受賞。ラ・フォル・ジュルネ琵琶湖2017、新進演奏家育成プロジェクトオーケストラシリーズ等に出演。

吉田 誠 (クラリネット Makoto YOSHIDA)

クラリネット・ソリスト。15歳からクラリネットを、22歳から小澤征爾、湯浅勇治の各氏のもとで指揮を学ぶ。東京藝術大学入学後、渡仏。文化庁海外新進芸術家派遣員として、パリ国立高等音楽院、ジュネーヴ国立高等音楽院で学んだ。第19回欧日音楽講座でミシェル・アリニョン特別賞を特設され授与。第5回東京音楽コンクール木管部門第1位及び聴衆賞。サイトウ・キネン・フィスティバル松本「兵士の物語」に2011年から毎年出演。2014年「トヨタ・マスター・プレイヤーズ、ウィーン」のソリストに抜擢され、巨匠ペーター・シュミードル氏と共演。2016年、2ヶ月連続でテレビ朝日「題名のない音楽会」で特集され、音楽業界の注目を集める。同年10月にはウィーンフィル首席奏者、ダニエル・オッテンザマーの代役として神戸国際芸術祭へ鮮烈デビュー。2017年、若き巨匠小菅優氏とのデュオ公演で欧州ツアーを成功裏に終える。2018年2月にはウィグモアホールへデビュー。2019年6月にはサントリーホールでキューピル・カルテットとブラームス：クラリネット五重奏曲を共演。同年2月に行われた小菅優氏とのリサイタルは、朝日新聞「回顧2019 音楽クラシック」で取り上げられ、絶賛された。文科省学習指導要領令和2年度改訂版教育芸術社小学校音楽教科書準拠「小学生の音楽鑑賞・表現」で演奏が紹介された。これまでに数多くの国際音楽祭やオーケストラにソリストとして招かれ、日欧でリサイタル、室内楽公演を重ねている。メディア出演も多数。2020年11月25日、ソニーミュージックから小菅優氏とのデュオによる「ブラームス&シューマン作品集」をリリース。

オフィシャル・ウェブサイト <https://makoto-yoshida.com>

長岡京室内アンサンブル Nagaokakyo Chamber Ensemble

「地域ごとに独自の音色を持つオーケストラがあるヨーロッパのように、長岡京独自の音色、思想を持った演奏団体を育てたい」、1970年代より欧米を中心に教育、演奏両面で国際的に活躍してきたヴァイオリニストの森悠子を音楽監督として、国内外から優秀な若手演奏家を集め、1997年3月に結成。指揮に頼らず互いの音を聴く「耳」を研ぎ澄ませる独自のスタイルを特長に、緻密で洗練された技術と凝集力の高さ、独自の様式感覚を持った高度の表現法と音楽性の高さは、日本でも希有な存在として高く評価される。バロックから古典、ロマン派、近現代に至るレパートリーの広さも際立っている。2000年「第20回音楽クリティッククラブ賞」、01年「エクソンモービル音楽奨励賞」、03年「藤堂頭一郎音楽褒賞」、04年長岡京市「文化功労賞」など受賞多数。毎回、コアメンバーの他にこれから世に飛び立とうとする新人があたかも新陳代謝をするかのように入れ替わることが、演奏レベルが下がることはない。「長岡京」から世界の第一線へ飛躍するメンバーも多い。

作曲家上田益氏依頼により2008年以来神戸ルミナリエの楽曲録音、神戸レクイエムの演奏に協力。これまでにfine N&Fから9枚のCDをリリース、高度な最新技術を駆使して録音されたレベルの高い演奏で、音楽評論家や音楽専門誌、新聞などでも評価高く、いずれも推薦版としてリリースされている。

公式HP www.musiccem.org

森 悠子 (ヴァイオリン Yuko MORI / 長岡京室内アンサンブル 音楽監督)

教育哲学者・森昭の次女。6歳より才能教育でヴァイオリンを始める。桐朋学園大学卒業後、齋藤秀雄教授の助手を務めたのち、旧チェコスロバキア、フランスに留学。マリア・ホロニョヴァ、ミシェル・オークレールの各氏に師事。74年パイヤール室内管弦楽団入団。古楽器演奏の黎明期のパリで、本格的な古楽器の演奏に関わりレコーディングにも参加。

職歴：77～87年フランス国立新放送管弦楽団(現国立放送フィル)。89～96年リヨン国立高等音楽院助教授。99～04年ルーズベルト大学シカゴ芸術大学音楽院教授。09～17年くらしき作陽大学音楽学部教授。

活動：89年フランス国立高等音楽院の教育システムを取り入れ、教授陣を招聘して毎春開催する京都フランス音楽アカデミーを創案、翌年関西日仏学館(現アンスティチュ・フランセ関西・京都)にて開講、音楽監督に就任(～2011)。97年「若い音楽家の育成と実践の場」と「常に世界に発信する演奏団体」を目指し、長岡京室内アンサンブル設立。09年自身の音楽理念を明確にするため特定非営利活動法人音楽への道CEMを設立、理事長に就任。演奏家のためのキャパシティビルディング講習会(初回2005年)や、子供のための音楽教育プログラム・プロペラプロジェクトを創設。毎年夏と冬に「子ども音楽道場」を、毎年1校小学校を訪問して「ヴァイオリンの体験学習」を開催(これまでに10校訪問)。15～17年指揮者飯森範親氏とオーケストラ・室内楽特別セミナーを行う。ヨーロッパではキャパシティビルディングinパリを2006年より毎夏開講するほか各地のマスタークラスに招聘される。

受賞歴：フランス政府より91年芸術文化勲章「シュヴァリエ章」、03年同「オフィシエ章」、02年「京都府あげほの賞」、16年「第34回京都府文化賞功労賞」、17年「京都市芸術振興賞」。

著書に「ヴァイオリニスト 空に飛びたくて」(春秋社)がある。

長岡京室内アンサンブル 京都公演

同じプログラムで下記の会場でも開催します。

2月6日(土)15:00

京都府長岡京記念文化会館

チケット全席指定 S 4,000円 A 3,000円 B 2,000円 (当日各500円up)

【長岡京記念文化会館】京都府長岡京市天神4丁目1-1 TEL.075-955-5711
●阪急京都線「長岡天神」下車、西へ徒歩約6分 ●JR「長岡京」下車、バスで約6分

森 悠子のプロペラプロジェクト～子ども音楽道場～

第17回 プロペラプロジェクト 2021年4月3日(土)～6日(火)

【募集人員】20名

小学生・中学生・高校生(ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバスを習っている人、教材曲が弾ける人)

【講習会場】2021年4月3日～6日 京都大学YMCA 地塩寮2階ホール

【最終日公開リハーサル】4月6日 ゲーティンスティチュート

【教材】未定 【受講料】未定

【お申込】特定非営利活動法人 音楽への道CEM 【メール】office@musiccem.org

※コロナ感染状況により日程の変更の可能性あります HP にてご確認ください <http://www.musiccem.org/>

《新型コロナ感染防止の取り組みとお願い》

- 入館時の混雑を避ける為に時間的な余裕を持ってお越し下さい。開場は開演の45分前、名古屋公演は12:15、東京公演は18:15でございます。
- ご入場の際は、マスクの着用のうえ手指の消毒をお願い致します。
- 新型コロナの感染状況により、出演者及びプログラムの変更や開催の中止をする場合があります。
- ご来場前に会場HP等でコロナ対応についてご確認頂ければ幸いです。

特定非営利活動法人 音楽への道CEM

三井住友海上 しらかわホール



<https://www.shirakawa-hall.com/>

渋谷区文化総合センター大和田 4F さくらホール



<https://www.shibu-cul.jp/sakurahall>

お問い合わせ

認定NPO法人音楽への道CEM・長岡京室内アンサンブル事務局

〒600-8023 京都府京都市下京区富永町358 LM 京都河原町114
TEL:075-351-5004 090-1905-7563 勝目 090-6903-6740 高芝

E-mail:office@musiccem.org
<http://www.musiccem.org/>

